美麻の動物の被害と対策

私たちは、美麻に生息する動物とそれによる農作物への被害と対策に興味を持ち、「美麻の動物による被害とそれに対する人々の工夫」というテーマで、五月中旬から総合的な学習の時間を利用して活動してきました。まず、動物に関する資料を読みました。そして、思っていたよりも被害が沢山あると知り、もっと詳しく知りたくなりました。そこで、動物の生態については、猟友会の方などにお話をうかがいました。実際の被害と対策については、地域の方々にアンケートを書いていただき、それをもとに数件のお宅に伺ってお話をお聞きしました。そして、実際に自分達が森へ調査に行き「獣道」を発見したり、動物のフンや食べ跡を見つけたり、仕掛けたワナを見たりして被害と対策についてまとめました。

昔ながらの里山作り できてますか？

笠松式ワナにかかったA君
獣道に設置する一般的なワナ。
小動物から大型動物まで捕獲可能

動物の中には、有害鳥獣と有害鳥獣ではない動物がいます。みなさんは、有害鳥獣とは何かわかりますか？

有害鳥獣とは、人間の生活に対し、生命的、経済的に害を及ぼす動物のことをいいます。例えば、サル、イノシシ、シカ、タヌキ、キツネ、カラス、ハトなどです。それに対して有害鳥獣ではないものは、カモシカ、クマなどです。クマは危険動物ですが、有害鳥獣ではありません。そして、有害鳥獣である動物とない動物には、大きな違いがあります。

有害鳥獣である、サルやイノシシなどは、駆除できます。しかし、クマやカモシカなどの駆除はできません。そのため、オリやワナにかかっても逃がさなければなりません。でもクマは、危険と判断された場合や県の許可が出た場合だけは、有害鳥獣の動物と同じ扱いができます。このような対策は、すべて、猟友会の方々や、ワナや鉄砲の免許を持つものでないとできません。

一般の方でもできる対策は、電気さくや髪の毛をつるす、鈴をつけるなどで、動物によって対策は違います。

しかし、人間の技術が進化するように、動物も進化します。いつかは、ここで紹介した対策の効果がなくなると思います。でも、私たちがやっていかなければならないことは、ただ一つです。それは、昔ながらの里作りです。なぜなら、人間が山に入らなくなったので、動物も、近くまでやってきてしまうと思うからです。

みなさんも心がけてみてはどうですか？

変わり続ける自然環境

森へ探検　Let's go!

昔はいなかった動物

突然ですが、みなさん。昔はイノシシや、サル、シカなどの動物が美麻地区にはいなかったことをご存知でしょうか。実は、それらの動物、十年くらい前まで美麻では発見されていなかったそうです。それまでは、ウサギやクマが主でした。それではなぜ、イノシシなどの動物が現れるようになったのでしょうか。猟友会の種山さんにお聞きしてみました。

正確なことはわかっていませんが、イノシシ、シカ、サルなどの動物は、本来、暖かいところに住む動物でした。それが、地球温暖化の影響で美麻にも住みつくようになった、というのが一つの例としてあげられています。この例が本当だとしたら、今、問題になっている温暖化が関係しているということがわかります。これ以上、被害を多くしないために、今、私たちができることもあるかもしれませんね。

野生動物の進化

野生動物は、進化し続けます。昔よりも動物は、頭がよくなっているようです。例えば、イノシシの被害への対策で、髪の毛をつるす、というのがあります。イノシシは、人間の髪の毛のにおいを嫌うからです。しかし、髪の毛のにおいにも慣れてしまう時もくるかもしれません。だんだん動物は、人間に慣れてしまってきています。また、サルは人間を見分けることができます。例えば、サルが見た人が子供や、女性だったり場合、自分のほうが強いと思っているのか、逃げずにいますが、男性を見たときは、逃げてしまうそうです。このように動物の生態は、人間生活に適応してきています。それにあった新しい対策をいつも考えていかなくてはいけませんね。

4コマ漫画　対策を考えたけど・・・。

猟友会で活躍する種山博茂さん

種山さんは、「美郷そば処」のご主人でもある

種山博茂さんは猟友会に入っています。猟友会の仕事は、動物による被害をなくすため、獣道にワナをしかけたり、鉄砲を使ったりして、有害鳥獣をつかまえることや、よりよい対策を考えることなどです。現在、猟友会のメンバーは約20人です。種山さんがつかまえたシカの重さは、最高で１５０キログラムだったそうです。今回私たちは、種山さんに動物の被害についてお聞きしたり、森へ行き、獣道やワナがしかけられている様子を見せていただいたりしました。

種山さんのおかげで、野生動物のことや実際に使っているワナのことを、詳しく知ることができました。

種山さん、ありがとうございました。